

2 「鯨っ子学習」のすゝめ

本校では、総合的な学習の時間のうち 15 時間を「鯨っ子学習」として設定している。「鯨っ子学習」とは、子どもたちが自身の興味・関心に関わる事柄について自分で見つけた課題を設定し、仮説を立て、調査を通して得られた情報を整理したり分析したりして、まとめて発表する学習を行っている¹。そして、論理的に結論を導く考え方を身に付け、自己の生き方を考えることを目指す。その際、上記の資質・能力を育成するために、次のような取り組みを全校で共通して行うこととしている。

- ・ 子どもたちが「㉞課題の設定」「㉟情報の収集」「㊱整理・分析」「㊲まとめ・表現」という探究的な学びをできるように「鯨っ子学習のすゝめ」（教師用：図 3、児童用：図 4）を作成する。
- ・ 探究的な学びに耐えうる課題を子どもたちが設定しやすくするように、各教科の学びを通して興味を引き出す。
- ・ 関心を抱いたものを記録しておく「課題ストック」を日頃から行えるように専用のノートを用意する。
- ・ 教師が課題や仮説の立て方、整理・分析の仕方などを例示する。

総合的な学習の時間の 70 時間のうち、「鯨っ子学習」を除いた 55 時間については、学年や学級で内容が異なる（表 1）。各学年でのプロセスにおいても、「㉞課題の設定」「㉟情報の収集」「㊱整理・分析」「㊲まとめ・表現」という探究的な学びを取り入れて行っている。また、㉞㉟㊱については、タブレット端末を活用して情報活用能力も身に付けるような学習を行っている。

児童が、「課題の設定」から「まとめ・表現」に至るまでの時数配分や活動例を示すことで、児童が見通しをもって学べるようにするために「鯨っ子学習」のすゝめ（教師用：図 3、児童用：図 4）を作成して提示する。

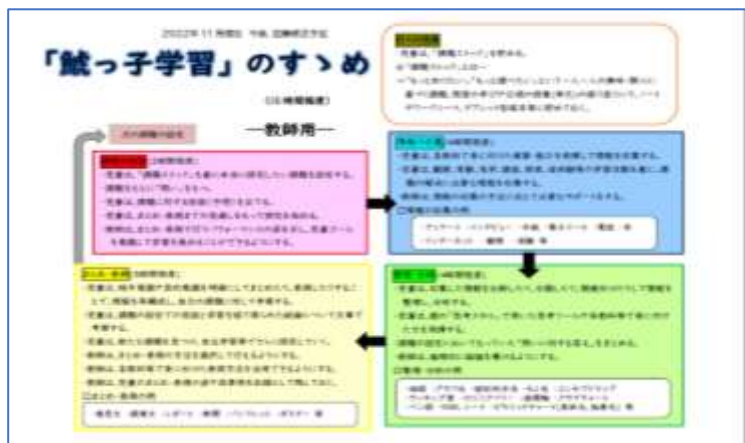


図 3 「鯨っ子学習」のすゝめ（教師用）

3 「鯨っ子学習」を含む

総合的な学習の時間の年間計画

学年毎の共通テーマと、本校独自の教科担任制を生かしたテーマ、児童の興味・関心から見いだした課題を解決する「鯨っ子学習」を設定し、進めていく（表 1）。鯨っ子学習については、上学年が下学年に学習過程を通して作られた成果物やそれについての発表を聞くことができ、系統性も意識することができるようにする。



図 4 「鯨っ子学習」のすゝめ（児童用）

4 「資質・能力デザイン」

「資質・能力デザイン」（表 2）を開発するにあたっては、「課題探究メソッド」（岡本 2017）を援用し、各教科等横断的な見方・考え方として二学年ごとに定める。ただし、小学校第 1・2 学年においては、生活科における資質・能力を総合的な学習の時間とのつながりを考えて設定する。

¹ 「アカデミック・ライティング指導の計画と実践 概要」- 「2 『鯨っ子学習』について」参照。

表 1 総合的な学習の時間の年間計画

学年	3年生	4年生	5年生	6年生
月	福祉	地域	環境	平和
4	タブレットの使い方 (タイピング) 調べ学習 A (学年テーマ)	A 横断的・総合的な探究課題 学年テーマ 「地域」 探究課題 「地域の特色と広げつ なげたいヒトやモノ」 学習事項 「佐賀藩の歴史を伝えよう」 「佐賀城本丸歴史館などの文化 財を知らせよう」 「佐賀を築いた七賢人を伝えよ う」 「佐賀城の周りの生き物を調べ よう」など ※情報活用能力の指導と並行	B 学級担任の教科の特色 を生かした探究課題 (例)算数科、特別活動、家庭科 テーマ 「国際理解」 探究課題 「地域に暮らす外国人 との人たちが大切に している文化や価値観」 学習事項 「佐賀の伝統や文化とそのよさ」 「世界の国々の伝統や文化とそのよ さ」 「異なる文化と交流する活動や取 組」など ※情報活用能力の指導と並行	C 【鯨っ子学習】 児童の興味・関心に 基づく探究課題
5	調べ学習 A		「異なる文化と交流する活動や取 組」など ※情報活用能力の指導と並行	※学習成果を5年生へ伝える
6	調べ学習 A 調べ学習 B (学級担任の教科の特 色を生かしたテーマ)		C 【鯨っ子学習】 児童の興味・関心に 基づく探究課題	A 横断的・総合的な探究課題 学年テーマ 「平和」 探究課題 ・「先人に学ぶ」① (まちの平和) GT:佐賀市長、市議会議員
7	調べ学習 B	夏休み		
8	夏休み			
9	調べ学習 B プログラミング学習	C 【鯨っ子学習】 児童の興味・関心に 基づく探究課題	※学習成果を4年生へ伝える	A 横断的・総合的な探究課題 学年テーマ 「平和」 探究課題 ・「先人に学ぶ」② (空・交通の平和) GT:ANAパイロット ・「先人に学ぶ」③(スポーツ) GT:佐賀ハルナーズ ・「先人に学ぶ」④ (宇宙の平和) GT:天文学者
10	プログラミング学習 特別支援学校との 交流学习	※学習成果を3年生へ伝える	北山自然体験学習「森林学 習館」で自然について学ぶ 中で課題意識をもつ	
11	特別支援学校との 交流学习	※学習成果を3年生へ伝える	A 横断的・総合的な探究課題 学年テーマ 「環境」 探究課題 「身近な自然環境とそこに 起きている環境問題」 学習事項 「身近な自然の存在とそのよさ」 「環境問題と自分たちの生活の関 わり」 「環境の保全やよりよい環境の創 造のための取組」など	B 学級担任の教科の特色 を生かした探究課題 (例)算数科、体育科、音楽科 テーマ 「キャリア」 探究課題 「実社会で働く人々の姿 と自己の将来」 学習事項 「働く人々の思い」 「〇〇になるためには」など ※中学1年生の発表
12	C 【鯨っ子学習】 児童の興味・関心に 基づく探究課題	B 学級担任の教科の特色 を生かした探究課題 (例)理科科、社会科、外国語活動 テーマ 「いろいろな視点から 地域を見よう」 学習事項 「地域の自然とわたしたち」 「佐賀と世界の国々のつながり」 「地域の防災」 「SDGsで佐賀や世界を見てみ よう」など		B 学級担任の教科の特色 を生かした探究課題 (例)算数科、体育科、音楽科 テーマ 「キャリア」 探究課題 「実社会で働く人々の姿 と自己の将来」 学習事項 「働く人々の思い」 「〇〇になるためには」など ※中学1年生の発表
1				卒業に向けて
2				
3				

(各学年：総合的な学習の時間 70 時間)

3 サイクル A：横断的・総合的な探究課題、B：学級担任の教科の特色を生かした探究課題、C：鯨っ子学習

表2 総合的な学習の時間で育成を目指す「資質・能力デザイン」

		レベル pre 1		レベル 1		レベル 2	
		小1	小2	小3	小4	小5	小6
知識 及び 技能	知識	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活の中で学習したことを生かすことができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自ら設定した課題を解決するための必要な知識を理解することができる。 ・各教科で学習した内容を生かして取り組むことができる。 			
	情報収集の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を使って対象の画像を撮影することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・人に聞いたり、図書館やICTを活用して調べたりして、必要な情報を集めることができる。 ・収集した情報をノートやタブレットPCに蓄積することができる。 ・多様な方法で自分の目的や意図に即した情報を収集することができる。 ・収集した情報の種類に応じてノートやタブレットPCに蓄積することができる。 			
思考力、 判断力、 表現力等	課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問点を基に、教師又は友達と共にめあてを立てる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味・関心のある事柄に関する課題を設定している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味・関心のある事柄から課題を見だし、設定している。 	
	リサーチ クエスチョンの 設定	<ul style="list-style-type: none"> ・結果や成果を予想する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味・関心のある事柄に関する課題に対して仮説を立てることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味・関心のある事柄から見いだした課題に対して仮説を立てることができる。 	
	仮説の設定						
	研究手法の選択 (研究計画作成)	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と共に観察や活動の計画を立てて、学習を見通す。 		<ul style="list-style-type: none"> ・解決に必要な調査方法を考えながら、計画を立てることができる。 ・いろいろな調査・実験方法を考える。 ・アンケートやインタビュー、実地見学の計画を立てる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・解決に必要な調査方法や手順を考え、計画を立てることができる。 ・仮説を検証するための調査・実験方法を見通す。 ・どのような図書やインターネットの情報が必要なか計画を立てる。 	
	調査・実験	<ul style="list-style-type: none"> ・見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶ等身近な人々、社会や自然に直接働きかけている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな調査・実験方法を試す。 ・テーマやキーワードに沿った図書やインターネットを選ぶことができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな調査・実験方法の中から、仮説の検証に合った方法を試す。 ・テーマやキーワードに沿った図書やインターネットを選び、適切な情報を得ることができる。 	
	整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と共に活動や体験を通して、対象から様々な情報を取り出すことができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報に対して思考ツール(ベン図、クラゲチャート、ピラミッドチャート、コンセプトマップ等)や他教科で学習した方法を用いて整理することができる。 ・整理したことをもとに、情報にある特徴を見つけることができる。 ・自分の課題に対して、自分なりの結論を出すことができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報に対して思考ツール等を適切に活用して整理することができる。 ・収集した情報を比較したり分類したり関連付けたりすることで、相互の関係を見いだすことができる。 ・自分の課題に対して、収集した情報から根拠をもち、論理的に結論を出すことができる。 	
	まとめ・発表	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身や自分の生活について考え、表現することができる。 ・言葉、絵、動作化、劇化などを用いて表現することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的を意識して、分かりやすい方法(レポート、新聞、プレゼンテーションソフト等)を選択し、まとめることができる。 ・足りない情報について再度調査・実験をし直すことができる。 ・他教科で培った表現力(文、図、グラフ、絵、声の大きさ、動作等)を生かすことができる。 ・課題設定での仮説と結論を比べることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的に応じて、分かりやすい方法を選択し、構成の仕方を考え、まとめることができる。 ・足りない情報について再度調査・実験をし直すことができる。 ・他教科で培った表現力等を適切に活用することができる。 ・課題設定での仮説と結論を比較し、文章で考察することができる。 	
	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを生活に生かそうとしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習の仕方を振り返り、他の学習や生活に生かそうとしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・新たな課題を見つけることができる。 	
学び に向かう 力、 人間 性等	探究的な 学習から得た 成果・気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身、身近な人々、社会や自然の特徴やよさ、関わりに気付いている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自ら設定した課題について探究的に学んだことにより、新しい知識を得たり、新しくできるようになったりした自分の変容に気付いている。 ・探究活動を通して、自分の生活を見直し、自分のよさを理解しようとしている。 ・探究活動を通して、自分や友達の見解や考えそれぞれによさがあることを知り、学び合おうとする。 			
	将来展望 ・社会参画	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人々、社会や自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学ぼうとしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・目標をもって課題の解決に向けた探究に取り組んでいる。 ・探究活動を通して、自分のこれからの生活について考え、夢や希望をもとうとしている。 ・探究活動を通して、生活の中で自分にできることを見付け、行動しようとする。 			

レベル3	レベル4	
中1	中2	中3
<ul style="list-style-type: none"> ・自ら設定した課題を解決するための必要な知識を関連付けて構造化することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら設定した課題を解決するための必要な知識を関連付けて構造化し、統合された概念として形成することができる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・多様な方法で自分の目的や意図に即した情報を収集することができる。 ・収集した情報の種類に応じてファイルや ICT で蓄積することができる。 ・自ら設定した課題を解決するための学習を通して、他者に貢献することへの意義を感じ、探究的な学びのよさを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・論文検索サイトを活用して引用文献や参考文献を適切に引用することができる。 ・収集した情報の種類に応じてファイルや ICT で蓄積することができる。 ・自ら設定した課題を解決するための学習を通して、社会や世界に貢献することへの意義を感じ、探究的な学びのよさを理解している。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・身の周りの課題の中から、解決の見通しを持つことのできる適切な課題を設定することができる。 ・グループの仲間との交流を通して課題を発見することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸課題の中から、解決の見通しを持つことのできる適切な課題を設定している。 ・自ら設定した課題を、他者と共有することで更なる課題の発見に結びつけることができる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに関する「問い」をこれまでの学術分野の先行研究・事例や対象や地域、状況など多面的・多角的な視点から検証し、リサーチクエストを発展させ、自分の研究の意義や今後の研究の道筋を自分なりに見出すこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに関する「問い」をこれまでの学術分野の先行研究・事例や対象や地域、状況など多面的・多角的な視点から検証して分類し、リサーチクエストを発展させ、自分の研究の意義や今後の研究の道筋を、これまでの研究の経験から推論して見通すこと。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・身の周りから課題を見だし、自ら立てた仮説やリサーチクエストを鑑み、研究計画を立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸問題から課題を見だし、自ら立てた仮説やリサーチクエストを鑑み、研究計画を立てることができる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・リサーチクエストに対する仮説を立証するために必要な情報と関連付けた最適な調査・実験方法を選ぶこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リサーチクエストに対する仮説を立証するために必要な情報と関連付けた調査・実験方法を、必要に応じて多面的・多角的に選ぶこと。また、複数の調査・実験方法を仮説と関連付けて構造化すること。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・リサーチクエストに対する答えを導くための調査・実験を行い、収集した情報の種類に応じてファイルや ICT で具体化して蓄積すること。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・収集した情報から、課題を解決するためにふさわしい情報を選択し、適切に整理するために、情報を分類したり比較したりできる。 ・収集した情報を多面的・多角的にとらえ、適切に判断したり、関連付け・構造化したりすることができる。 ・収集した情報から課題解決に結び付く情報を選択したり、組み合わせたりすることができる。 ・疑問に感じた点や困難さを感じた点について、仲間と話し合うことで、よりよく解決することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収集した情報から、課題を解決するためにふさわしい情報を選択し、適切に整理するために、情報を分類したり比較したりできる。 ・収集した情報を多面的・多角的にとらえ、適切に判断したり、関連付け・構造化したりすることができる。 ・収集した情報から課題解決に結び付く情報を選択したり、組み合わせたりすることができる。 ・疑問に感じた点や困難さを感じた点について、仲間と話し合うことで、よりよく解決することができる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・目的・場面・状況等に応じて、課題やその追及の過程について、分かりやすく構成することができる。 ・発表資料の作成や発表の準備をする際、プレゼンテーションソフトやレポート作成に、教科等や B-Time で得られた知識や技能を活用することができる。 ・仮説と得られた結果を関連付けて結論を出し、調査・実験の改善点等を考察することができる。 ・伝える相手の立場や状況を意識して、適切な方法を用いて発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的・場面・状況等に応じて、課題やその追及の過程について、読み手や聞き手の興味を喚起するように構成することができる。 ・発表資料の作成や発表の準備をする際、プレゼンテーションソフトやレポート作成に、教科等や B-Time で得られた知識や技能を自在に活用することができる。 ・仮説と得られた結果を関連付けて結論を出し、調査・実験の改善点や次の研究につながる「問い」を導き出すことができる。 ・伝える相手の反応を見ながら声の大きさやジェスチャーを工夫して発表することができる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動を通して、自分自身を理解し、今後の生き方について考えようとしている。 ・探究活動を通して、他者の多様な考えや価値観を受け入れ尊重しながら学び合おうとする。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動の結果がもたらす好影響を理解して探究活動に取り組んでいる。 ・協働の大切さに気づき、自他のよさを生かしながら協働して探究活動に取り組んでいる。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動を通して、自分の将来の生き方を考え、夢や希望をもち、具体的な進路を描いている。 ・探究活動を通して、自分の身の周りや世界の諸問題に常に興味をもち、他者や社会に貢献できることを検討し、実践に移そうとする。 		